

「輸出漆器が語る東西交流の400年」  
Japanese Export Lacquer: 400 Years of East-West Cultural Exchange

日本の蒔絵まきえは、大航海時代の西洋人に見出されて以来、「鎖国」の時代を通じて輸出されていました。ヨーロッパでは、遠く東洋からもたらされる美術品として珍重され、ルイ14世やマリア・テレジアをはじめとする王侯の城館を飾りました。蒔絵はなぜそこまでの人気を博したのでしょうか。

輸出漆器の研究は、ここ10余年で飛躍的な展開を見せています。日本美術史の流れに位置づけようとする動き、アジア地域内貿易を中心とした輸出ルートを解明しようとする動き、ヨーロッパの古城に眠る漆器の発掘や、宮廷文化における受容と西洋美術への影響を考える動きなど、視点も多角化しています。

本シンポジウムでは、国内外の気鋭の研究者三人に輸出漆器を語っていただき、異文化の出会いのただなかで、日本の蒔絵が見せたさまざまな姿と、そのダイナミックな歴史に迫ります。

## 1. 開催日程

テマ	「輸出漆器が語る東西交流の400年」
日時	11月8日(土) 午後1時~5時
会場	国立京都国際会館 アネックスホール JR京都駅より地下鉄烏丸線へ乗りかえ、国際会館駅下車徒歩5分
聴講料	無料

## 2. プログラム

### 第一部 研究発表:

日高 薫 氏 (国立歴史民俗博物館 情報資料研究系 准教授)  
シンティア・フィアレイ 氏 (オランダ・ライデン大学ヨーロッパ拡張史研究所研究員)  
フィリップ・スホメル 氏 (チェコ・プラハ工芸大学副学長)

### 第二部 パネル・ディスカッション:

日高 薫 氏  
シンティア・フィアレイ 氏  
フィリップ・スホメル 氏  
永島 明子 (京都国立博物館 主任研究員)

### 【司会】

加藤 寛 氏 (鶴見大学文学部文化財学科教授)

**申込方法** 往復はがきに住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、お申し込みください。  
平成20年10月1日より受付けます。定員になり次第締め切ります。

**宛先** 〒605-0931 京都市東山区茶屋町527 京都国立博物館「国際シンポジウム」係

京都国立博物館

お問い合わせ先 075-531-7509 (企画室)